

福島県環境審議会第1部会（平成17年12月26日）の意見

意見箇所	委員	意見の内容
4 現状と課題 (3) 生活様 ついて	福島委員	前には、日本の古来からの文化を呼び起こす必要があると書いてあって、後は非常に西洋の視点が多く入り込んでおり矛盾を感じる。「これらを改めて呼び起こし」を「これらを改めて呼び起こすとともに、欧米社会の進んだリサイクルの視点や技術を日本の文化に取り入れ」というふうにしては。
5 福島県が目 指す循環型社 会 (2) 適正な 資源循環 が確保さ れた社会	中村委員	3Rの推進のコラムで、「1つ目のR（リデュース）はごみになるものを拒否すること」とあるが、これは拒否することだけでなく減少させることだと思う。拒否は、18ページのリフューズだと思う。
	須藤委員	「3Rの推進」のコラム欄で、最後の部分になお書きで から まで書いてあるが、この部分を強調したいので、太字にするとか分かりやすい表現をしてほしい。
	岡崎委員	3Rの推進のコラムのところ、18ページに4Rのコラムがありますよということを記述しておけば親切ではないか。
	福島委員	年号の記載について、4ページのコラムと5ページのコラムで、西暦を先にするか平成という表記を先にするか統一した方がよい。
5 福島県が目 (3) 心の豊 かさを重 視した賢 い生活様	長澤委員	コラムは見て分かるということが必要。1つ目のR、2つ目のR、3つ目のRのところを強調するとか、文章の編集とか文字の大小をつけるとかもっと工夫してほしい。ビジュアル的に分かりやすくしてほしい。
	後藤委員	もったいないのコラムで、せっかくアンケート結果が記載されたので、興味をもった方が全体の資料を見られるように、とりまとめた資料があればそのタイトルを記載するとか、ホームページに載せてあるのであればURLを入れておくとかすればよい。
6 施策の展開 (1) 自然循 森林の	長澤委員	もったいないのコラムの件で、内容的にはこれで良いが、「平成16年」からはじまる最初の部分は、2つの文に分けるといい。その後の「平成17年」からの部分も2つに切った方がよい。
	後藤委員	「多様な森林を整備します」は「健全な森林を整備します」とした方がよいのでは。
6 施策の展開 (1) 自然循 野生動	後藤委員	面的な法律による指定いろいろある。森林の方では自然環境保全地域とかもあるので、風致地区と同様に入れ込んでいくべきではないか。
6 施策の展開 (1) 自然循 緑化の	後藤委員	「県民の財産である野生動植物」を「県民にとっての財産である野生動植物」としてはどうか。
6 施策の展開 (1) 自然循 緑化の	福島委員	この項目は緑地に関連したところで、「樹木等」という言葉が入ってきているのはおかしいのではないか。
6 施策の展開 (2) 適正な	長澤委員	冒頭の表現について、非常に難しい言葉が並んでいる。2つに区切って分かりやすくしていただきたい。

意見箇所	委員	意見の内容
6 施策の展開 (2) 適正な資源循環の確保等 廃棄物の発生抑制及び循環資源の循環適利用の促進	紺野委員	いま、行政回収というものが進んでいて、集団回収業者は減ってきている。民間が自由に、子供会とか婦人会とかによる集団回収というものがある。今進めなくてはいけないのは行政回収であって、集団回収を促進するというのはどうか。
	大越委員	具体的な施策の記述がそれぞれ個別の法律に沿って書かれている。法律名を括弧書きしたら良い。
	長澤委員	「ゼロエミッション」のコラムで、「ゼロ・ウェイスト」という言葉も全体会の時に議論した。ゼロエミッションの後付けとかでも構わないので入れてみてはどうか。
	長澤委員	「簡易包装の推進や生ごみの自家処理などの普及によりごみの減量化を図ります。」という項目。簡易包装は3Rの精神でいうとリデュース、発生抑制で、生ごみの自家処理はリサイクル。自家処理を促進するとか書いて、簡易包装だけではごみは減量化されないの、別に分けて書いた方が良い。
	引地委員	生ごみのところと食品廃棄物、小さな商店等では生ごみの処理が完全に進んでなく食品廃棄物等が多い原因。こういうものを減らしていくことが大事。生ごみの自家処理とあるのは家庭レベル、食品廃棄物等というのは商店とかを含むということか。小さな事業所から出る生ごみの処理が進んでいないということを意識して書かれているのか。いわき市の場合は商店からの生ごみは事業系一般廃棄物として受け入れてしまうので、廃棄物の量が非常に多くなっているいろいろな問題がある。
	長澤委員	「簡易包装の推進や」をとって「家庭の生ごみの自家処理などの推進により、」とし、12ページは「事業系食品廃棄物等の発生抑制」という表現にした方が良い。
	須藤委員	廃棄物の発生抑制の本文と具体的施策で挙げられている項目が少しずれているのではないかと。それと並べ方がバラバラな気がする。例えば市民の立場とか市町村とかの主体ごとに並べた形にした方がいいと思う。
	長澤委員 長澤委員	具体的施策を整理するという話だが、畜産廃棄物や剪定枝も想定して具体的施策に入れてほしい。 「集団回収を促進し、」という表現、この場合は「資源回収」という言葉を使った方がよい。
6 施策の展開 (2) 適正な資源循環の確保等 環境物品等への需要の転	長澤委員	「環境物品等への需要の転換の促進」のところ、グリーン購入には省エネ製品の優先購入も含むという説明があったが、コラムにも省エネ性マークとか国際エネルギースターマークとかあり、50の実践の中にもいろいろな省エネ製品のことも入っていることから、グリーン購入とは別に省エネ製品を記載していただけないか。
	長澤委員	我々県民サイドはグリーン購入法というよりは省エネ製品、地球温暖化というところに関心がいつてしまっている。どちらかというと、グリーン購入より省エネ製品を使いましょうということの方が身近に感じられる。
	後藤委員	グリーン購入はグリーンコンシューマーの原則の1つ。グリーン購入の概念そのものも相当幅広い。グリーン購入の解説の中でそのへんも触れると良い。
6 施策の展開 (2) 適正な資源循環の確保等 バイオマス製品の利用促進	福島委員	環境の方面のことで仕方ないかもしれないが、非常に外国の言葉が多い。「バイオマス製品の利用の促進」のところ出てくるカスケードとかマテリアルという言葉は、わざわざわからない言葉を出さなくてはならないのか。こういう言葉がたくさん使われているのは、普通に考えると抵抗感があるのではないかと。カスケード利用というのは、コラムを読んでも1つの単語として何となくわかるかなと思うがマテリアルは一般化しているのか非常に疑問がある。
	引地委員	木質ペレットについて、建設廃材を一部ペレットに使っているということが話題になっており、一部には有害な部分も使っているということで、ペレットを作る際に建設廃材を利用する際の制限というのが考えられているのか確認したい。

意見箇所	委員	意見の内容
6 施策の展開 (3)心の豊	長澤委員	文章が長いので2つに分けてほしい。
6 施策の展開 (3)心の豊 循環型	大越委員	「環境問題に関心のある」とあるが、関心のある団体だけではだめで、「環境に関心を深めるため」と直していただきたい。
6 施策の展開 (3)心の豊 県民等	引地委員	「4R運動」のコラムの修理、リペアについて強調したい。修理というのに重きを置かなくなってきて、修理をしたくても部品の在庫がないために修理できない。家電製品も小さい製品はほとんど廃棄されている。事業者の責任とかで、修理して使うことを規定できないか。
6 施策の展開 (4)共通の 経済的	長澤委員	産業廃棄物税と森林環境税のコラムで、産業廃棄物税のところの文章が長いので2つに区切ってほしい。
7 計画の推進 (4)行政の 県	後藤委員	「連携・共同した」は「連携・共同による」という表現でいいのでは。
	須藤委員	「環境にやさしい物品等の購入(グリーン購入)」の項目を一番上に持っていくことはできないか。
7 計画の推進 (5)連携	福島委員	「普及啓蒙活動」は「普及啓発活動」の方が良い。

福島県環境審議会第1部会（平成17年12月26日）の文書による意見

意見箇所	委員	意見の内容
6 施策の展開 (1) 自然循環健全な	稲森委員	合併処理浄化槽では水質保全上問題があるので、高度合併処理浄化槽とすることが必要不可欠である。
6 施策の展開 (1) 自然循環猪苗代	稲森委員	現在、環境省でも「窒素・リン除去型高度合併処理浄化槽」に補助金を出しているので、「窒素除去型合併処理浄化槽」は修正が必要ではないか。
別表1 もったいない 50の実践	稲森委員	ごみ関連のところで、最近、生ごみを粉砕して流すディスポーザが大きな問題となっている。平成2年度の水質汚濁防止法の改正による台所対策としての「作りすぎない」「捨てない」「流さない」に逆行するディスポーザの使用については、強い規制が必要。ディスポーザ排水システムとしての除外施設と組み合わせるか、ディスポーザ対応型高度合併処理浄化槽で整備するという点が必要不可欠である。
	中村委員	「自然に対して感謝や畏敬の念のないこと。」をはじめとして29件の追加提案があった。
	引地委員	「古本の再利用を積極的に行いましょう。」をはじめとして2件の追加提案があった。
	長澤委員	「米のとぎ汁は植物にかけましょう。」をはじめとして12件の追加、1件の修正提案があった。
	大越委員	「ガラス窓もダブルガラス等省エネルギーになるものを積極的に利用しましょう。」をはじめとして7件の追加、8件の修正提案があった。
	須藤委員	「お風呂は続けて・・・」をはじめとして2件の削除、8件の修正等の提案があった。
	岡崎委員	「もったいない」というケースは、日常、身の回りにはたくさんあるのではないのでしょうか。その中から委員全員が納得するような例を一定数選ぶとなれば、時間もかかるでしょうし、難しいのではないのでしょうか。何を取り上げて、取り上げないかという「基準」は、それぞれの立場や生活スタイルによっても様々だと考えられる。そこで、推進計画の中で項目を「決め」てしまうのではなく、県が推進計画を進めるにあたっての、個々の取組みとか、様々なシーンなどに応じ、臨機応変に選び、示していったほうがいいのではないかと思います。
別表2 数値目標	引地委員	間伐実施面積の目標（平成22年度）4,400haをもう少し大きい値にしたい。（理由）現在の人工林はほとんどが密集しており、木の成長と洪水防止が抑制されています。
	長澤委員	「環境にやさしい米づくり」面積で、16年度の約7倍の達成はむずかしいのではないのでしょうか
	須藤委員	水質環境基準達成率については、5年後に100%が望ましいとしても、より可能な数値を出すべき。汚水処理人口普及率で、下水道化構想の見直しにより76%の目標値としてあることからしてもおかしいのでは
	稲森委員	猪苗代湖は水質を保全する湖沼として重要な位置づけにある。それ故、CODのみではなく、N、Pの達成目標現状のままでOKであれば、現状と目標が同じ数値であってもよい。窒素、りんは数値目標として必要不可欠である。
	長澤委員	自然環境に対する修復事業（例えば「河川の流れを蛇行に戻す」や「希少植物の環境改善（回復）」）の現況及び目標を加えることはできるか。
	大越委員	分別回収に取り組んでいる市町村数があると良い。できれば、分別種類の数別もあればよい。
	長澤委員	産業廃棄物減量化・再生利用率で現況と目標が同じ理由は？

意見箇所	委員	意見の内容
別表2 数値目標	引地委員	産業廃棄物の減量化・再生利用率の目標、目標値を1%でも大きくして94%とし、各排出事業者への協力を依頼することが大切になります。
	須藤委員	産業廃棄物減量化・再生利用率の目標値で、現状維持がベストなのかもしれないが1%でもアップの目標値であってほしい。
	長澤委員	学校教育における事業（例えば「小学校4年総合学習に位置づけされた環境学習の成果」や「環境学習のモデル校の認定」）の現況と目標を加えることはできるか。
		「心の豊かさ」の数値目標として「地球温暖化推進委員認定数」、「森の案内人認定者数」、「環境保全市民団体数」及び「NPO団体数」を加えては。
引地委員	「もったいない運動」参加団体数で、現況（平成16年度）は0団体ですが、いわき市のザ・ピープルは早くから実施されていましたが？調べて下さい。	